

20075

LMT 入口部 just に Stent 留置をするための IVUS ガイドの有用性

【目的】LMT 入口部病変への PCI において IVUS ガイドは必須である。再狭窄の原因となる Recoil や Stent 変形をおこさないために入口部 just に Stent 留置することが重要である。今回、IVUS にて入口部および Stent を直視することにより、LMT 入口部 just への STENT 留置に成功した症例を経験したので報告する。**【症例】**左胸痛,呼吸苦出現し救急外来受診。CAG にて LAD6 に 100%閉塞が認められ PCI となる。LAD6 に Stent を留置したが LMT に plaque shift し,引き続き LMT も治療となった。LCX 側に IVUS, LAD 側に NOBORI 3.5/18mm を挿入した。IVUS のトランスデューサーを LMT 入口部 just に置き, NOBORI の Stent proximal edge を入口部と一致させ, IVUS をガイディングカテーテル内に収納し Stent 拡張した。MAVERICK XL 5.5/20 で POT 後, LAD HL, LCX と共に 3 枝同時拡張を行った。最終 IVUS で STENT が入口部 just に留置されていることを確認した。**【考察】**LMT 入口部 just に Stent を留置する際に造影像だけでは困難である。今回の症例のように三枝同時拡張といった複雑な手技を必要とする際, LMT 入口部 just に STENT を留置することが重要であり, IVUS ガイドが有意義であった。IVUS ガイド下で Stent を留置する際には, Stent proximal edge だけでなく Shaft 部, Marker 部, Balloon 先端部の IVUS 像を把握しておかなければならない。**【結論】**IVUS にて入口部および Stent を直視することにより, LMT 入口部 just への STENT 留置に成功した症例を経験した。